

五色塚古墳(神戸市)

前方が海岸側(南側)から見た五色塚古墳(千壺古墳とも呼ばれる)/明石海峡を行きかう船から見上げると、こんな感じに見えたのかもしれない/4世紀後半に築造された兵庫県下最大の前方後円墳/左手が前方部、右手は後円部/古代には摂津国から播磨国へと通じる山陽道の要衝の地でもあり、海上交通と陸上交通を掌握するヤマト王権と強い関わりのある豪族の墓と推測できると云う

[video](#)



右手が前方部/南側には山陽電鉄本線・JR神戸線が敷設されており、周辺の宅地化も進んでいるので、二重の周濠(深い内濠と浅い外濠)の浅い外濠は失われてしまったらしい

[video](#)



そこで、右手に後円部方向を見たところ/綺麗に整っているが、日本で最初の復元整備された古墳であると言う/三段に築かれた墳丘のうち、下段は地山を前方後円形に掘り残し、中段及び上段は盛土を行っている/下段の斜面には小さな石を葺き、中段及び上段の斜面には大きな石を葺いている

[video](#)



括れ部辺りを見たところ/左手が前方部、右手は後円部/墳丘を取り巻く周濠の中には島状の土壇が3基存在し、祭祀を行う場所であったと考えられている/
その内の1基で埴輪棺が見つかったらしい [video](#)



そこで、左手に前方部を見たところ/中段及び上段の葺石は分析の結果、日本書紀の記述通り淡路島の東側の海岸から産出するものが運ばれたと云う/
墳頂と二段のテラスには、緒付円筒埴輪・緒付朝顔形埴輪などが巡らされている/手前は一つ目の土壇



同じく、右手に後円部を見たところ/内部構造は未調査のため不明だが、後円部墳頂に竪穴系の埋葬施設が存在すると推測されている

[video](#)



後円部墳頂を見上げたところ



後円部から前方部方向を見たところ/前方に一つ目の土壇が見える

[video](#)



そこで、右手を見たところ/これが二つ目の土壇



反対側から見たところ/手前には葺石用の石が積まれていた

[video](#)



そこで、更に右手を見たところ/こちらは後円部の後ろ辺り



これは北側から濠越しに後円部を見たところ/標柱が立っている

 video



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ/前方に見えるのは、西隣に所在する小壺古墳



西側から見た後円部



そこで、後円部から前方部方向を見たところ

 [video](#)



説明板等が並んでいる

[video](#)





史跡
五色塔什古墳
小壺古墳

五色塔古墳復元整備完了記念
平成30年4月
神戸市 西宮区 西宮

史跡 五色塚古墳

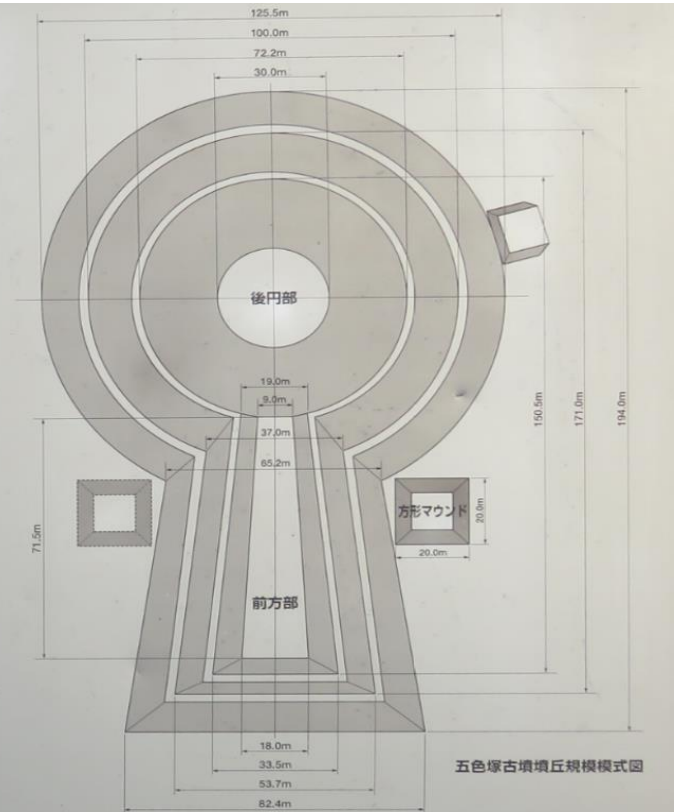
五色塚古墳と小壺古墳は、古墳が造られた当時の姿が見られる野外博物館として、文化庁が計画を立て、神戸市により1965年から10年の歳月をかけて発掘調査と復元整備工事が行われました。

五色塚古墳は、墳丘の全長194メートル、後円部の高さ18.8メートルの、兵庫県下最大の前方後円墳です。周囲は深い濠と、今は見ることはできませんが、浅い濠で二重に囲まれています。墳丘は三段に築かれ、下段の斜面には古墳付近で集めた小さな石を葺き、中段と上段の斜面には淡路島から運ばれた大きな石を葺いていました。

墳頂と各段の平坦面には鱗付円筒埴輪・鱗付朝顔形埴輪をめぐらせていて、およそ2,200本立てられていたと推定されます。濠の中には東西のくびれ部付近に方形マウンド(島状遺構)が造られているほか、円筒棺を埋めたマウンドもありました。

五色塚古墳では、後円部にあると考えられる埋葬施設などの発掘調査は行っていません。古墳が造られた時期を推定する材料は少ないのですが、埴輪の形などからみて、4世紀後半ごろと考えられます。

神戸市教育委員会





そこで、左手に前方部を取り巻く濠を見たところ

 [video](#)



同じく、右手に前方部を見たところ/手前には案内所が見える/この辺りに三つ目の土壇があったようだが...



これは前方部の角から後円部方向を見たところ



そこで、右手を見たところ/この前方部南側には通路のように土橋が設けられていたらしい

[video](#)



さて、墳丘に登ってみよう

 video



階段を登って、後円部墳頂を見たところ

[video](#)



振り返って、前方部を見たところ



前方部先端からは淡路島と明石海峡大橋(右手)が見える

[video](#)



左手には説明板があった

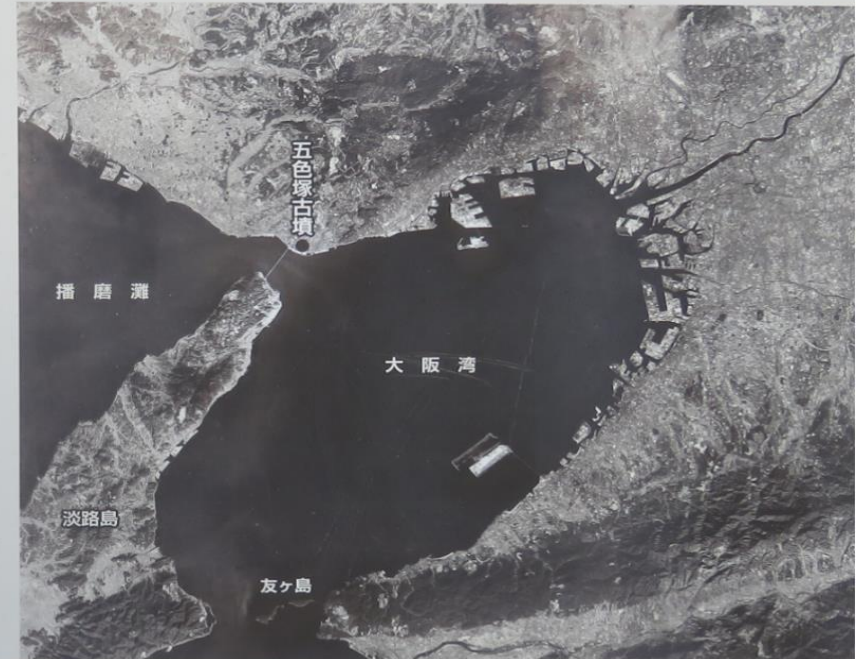


ほうむ

葬られた人物

五色塚古墳・小壺古墳は、須磨から明石にかけての海岸線が最も突出したところに造られています。墳頂からは、明石海峡をへだてて淡路島が望め、右手に播磨灘、左手に大阪湾、天候がよければ小豆島や紀伊半島・友ヶ島まで望むことができます。

現在は眼前に埋立地が広がりますが、五色塚古墳・小壺古墳が造られた頃の海岸線は国道2号線付近で、海を見下ろす位置にあたります。そのため、明石海峡を中心とした海陸交通要衝の地を支配した人物が葬られているのではないかと考えられます。



明石海峡大橋/下は山陽電鉄本線・JR神戸線



振り返って、後円部方向を見たところ

[video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



これは一つ目の土壇を見下ろしたところ

[video](#)



括れ部と後円部を見たところ

[video](#)



そこで、左手を見たところ/左端は西隣に所在する小壺古墳



同じく、右手を見たところ



ここは後円部墳頂/南側から北方向に見たところ

[video](#)



振り返って、前方部方向(南方向)を見たところ

[video](#)



そこで、左手を見たところ/一ツ目の土壇が見える



同じく、右手を見たところ/案内所の建物が見える



これは後円部を北側から南方向に見たところ/説明板が立っているのが見える

[video](#)



埴輪列の復元

五色塚古墳では、墳頂部・上段平坦面・中段平坦面の三段に埴輪が並べられていました。古墳全体ではおよそ2,200本もの埴輪がめぐらされていたと推定されます。

埴輪の大部分は鱗付円筒埴輪で、4～6本に1本の割合で、鱗付朝顔形埴輪が立てられていました。埴輪列は、幅0.5～0.7m、深さ0.4～0.5mの溝を掘り、その中に鱗が接するか前後に重なるように並べ、土で埋めて固定しています。

また、蓋形埴輪や家形埴輪、盾形埴輪なども少量発見されています。

後円部と前方部墳頂の埴輪列は、出土した埴輪をもとにして鱗付円筒埴輪と鱗付朝顔形埴輪を合成樹脂で製作し、復元しました。



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



振り返って、北方向を見下ろしたところ

[video](#)



そこで、左下を見ると西隣に所在する小壺古墳が見える

[video](#)



さて、これが西隣に所在する小壺古墳/4世紀後半築造の円墳

[video](#)





葺石は施されていなかったようだ

こつぽ こふん 史跡 小壺古墳

小壺古墳は、直径70m、高さ約8.5mの円墳で、古墳の裾と濠の大部分は周りの道路敷までひろがっています。

墳丘は2段に築かれており、墳頂部と中段の平坦面には、五色塚古墳と同形の鱗付円筒埴輪ひれつきえんとう はにわがめぐらされていました。家形埴輪も数個分発見されています。斜面に葺石ふきいしはありませんでした。

小壺古墳が造られた時期は、埴輪の形などからみて五色塚古墳と同じ、4世紀後半ごろと推定されます。

整備にあたっては、墳丘斜面に平坦面をつくらず、斜面全体に芝張りを行いました。

神戸市教育委員会

これは案内所に展示されていた出土品(円筒埴輪群)/重要文化財/正面中央は緒付朝顔形埴輪



こちらは鱗付円筒埴輪





古墳時代
かっせきせいこももがたま
滑石製子持勾玉
小さな突起がくっついているので、「子持」と呼んでいます。6世紀のもので、五色塚古墳が造られてから150年ほど後のものです。
五色塚古墳



いよいよ、明石海峡をまたぐ船から進む巨大なトンネルが、明石海峡大橋と並んで、1600年を越えて、ついに完成した。明石海峡大橋は、神戸市東灘区と淡路市を結ぶ、淡路島へ向かって前方部分を、すでに「回廊」が完成している。

ぶらっと 関西 歴史散歩

兵庫・五色塚古墳

海峡望み1600年 謎満ちた巨体



淡路島(奥)を結ぶ五色塚古墳。右奥は明石海峡大橋—ドローンで丹手さゆり撮影

約2000年、ヤマト文化の中心地として栄えた。その中心地として、古墳時代には、大規模な古墳が築かれた。その中心地として、古墳時代には、大規模な古墳が築かれた。その中心地として、古墳時代には、大規模な古墳が築かれた。

五色塚古墳は、兵庫県淡路市にある古墳。古墳時代中期の古墳で、直径約100メートル、高さ約10メートルの円形土壇が特徴的。出土品として、土師器や埴輪が確認されている。古墳の築造は、約1600年前と推定されている。



五色塚古墳の出土品として、土師器や埴輪が確認されている。古墳の築造は、約1600年前と推定されている。

五色塚古墳の出土品として、土師器や埴輪が確認されている。古墳の築造は、約1600年前と推定されている。

五色塚古墳出土の 埴輪が重要文化財に



2012年4月20日に開かれた国の文化審議会で、五色塚古墳出土埴輪の歴史的価値が高く評価され、重要文化財に指定するよう答申されました。五色塚古墳にはおよそ2200本の埴輪が立て並べられていたと推定されています。そのうち約600本が発掘調査で取り上げられ、破片になっていたものをつなぎ合わせ、上の写真のように復元されました。

指定される埴輪は、埋蔵文化財センター(西神中央駅から徒歩6分)で見学することができます。

神戸市教育委員会

参考ホームページ

[2020goshikiduka_leaflet.pdf \(kobe.lg.jp\)](#)

<https://tabi-mag.jp/hg0195/>

<https://kofun.info/kofun/69>

<https://www.tb.mlit.go.jp/kobe/goshikizukakofun.html>

<https://setouchifinder.com/ja/detail/296>

www.fuwaiin.com/kofun/kofun-soremici/hyougo-gosikizuka-kofun/hyougo-gosikizuka-kofun.html

<https://www.sawanotsuru.co.jp/guide/kobe/07/03.htm>

